2022 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	**観光政策形成における心理的論理の考察** **ー地域性が特定されない観光資源の活用事例を通してー**
キーワード	① 地方自治体、② 観光政策、③ 岡山市

研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏　名	ミヤザキ　ユリ 宮﨑　友里
配付時の所属先・職位等 （令和４年４月１日現在）	立教大学観光学部・助教
現在の所属先・職位等 （令和５年７月１日現在）	立教大学観光学部・助教
プロフィール	同志社大学政策学部卒業。神戸大学大学院国際協力研究科博士前期課程　修了。修士（政治学）。神戸大学大学院国際協力研究科博士後期課程　修了。博士（政治学）。龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター博士研究員を経て、2021 年度より立教大学観光学部助教。

1. 研究の概要

地方自治体の観光政策が、地域社会においてどのような意味を持つのかを考察するのが、本研究の趣旨である。これまで、地方自治体の政策形成は政治学・行政学において研究が蓄積されてきたが、観光政策の形成については、近年になってようやく研究が蓄積され始めた段階であると指摘できよう。本研究は、地方自治体の観光政策研究群に付け加える一つの事例として、岡山県岡山市に焦点を当てるものである。なお、考察する際には、福島県会津若松市の観光政策を議論の射程に含めた、政治思想の近現代史に関する先行研究から理論的示唆を得た。

2. 研究の動機、目的

本研究は、岡山市による桃太郎伝説の観光資源化がどのような論理で意味を成すのかを明らかにすることが目的である。先行研究として、文化人類学の研究があり、観光資源化の経緯を整理している。一方で本研究が着目したのは、日本において広く知られる桃太郎伝説の候補地は国内に多数あったこと、そしてその有力候補地は岡山市ではないとされていた時代において、岡山市が桃太郎伝説を各所で使用し始めたことである。すなわち、日本各地の候補地を比較の視座で見るならば、岡山市のこの動向は研究対象となり得るものであり、考察の対象となると考えた。

3. 研究の結果

研究費は、図書資料費と出張費として執行した。出張は、調査出張が 2 回と学会出張が 1 回であった。まず調査出張にて、岡山県岡山市での資料収集を実施した。その後、比較考察対象地である福島県会津若松市においてフィールドワークを実施した。地方自治体の観光政策に関する学術書についての書評を執筆しながら、観光の最新研究との関連を探るために学会出

張を実施した。研究の結果、岡山市が桃太郎伝説を観光資源化したのは、地域社会で醸成されてきた地域像の表明、という意味を持つことが明らかとなった。これは、桃太郎伝説の競合する他の候補地を含めた他地域の動向や、あるいは他地域との差異の強調よりも、地域内部の論理が重要となる状況にあったこと含意する。

本研究に関して、学会報告が１回（学会報告論文として１報）、研究会報告が２回、関連する書評が 1 本ある。書評は、女性研究者奨励金の助成を受けた研究成果の一部であることを付記して公表している。なお、学会報告論文に加筆修正を加えたものを、公表論文とする方向で研究活動を継続している。

4. 研究者としてのこれからの展望

これまで、大学院生として研究活動を積み重ねていた頃は、その成果を学術論文として学会誌等に投稿し、学術研究に貢献できるようにと試みてきた。その後、博士研究員や教員となってからは、研究活動それ自体が社会への貢献につながり得ることを理解した。研究の社会的価値を理解したことで、今後は、研究者としての活動の場を学術業界に限定することなく実社会に広げるとよいのではないかという展望を持つに至った。そのためには、まずは研究対象地でのフィールドワークを着実に実施していくことが必要だと考えている。

5. 支援者（寄付企業等や社会一般）等へのメッセージ

女性研究者奨励金に採択頂き、この奨励金に基づいて研究活動をする中で、思わぬ反響があったことを報告したい。それは、これまで実績を積んできたキャリア年数の長い女性研究者や、世代を問わず男性研究者からのエールである。女性研究者奨励金という名称の研究費を使用することに気付いた周囲の研究者らが、改めて私の属性に気付いてくださる契機となったのではないかと考えると同時に、こうしたエールを受け取った際は、私自身が他の女性研究者と同じ属性を持つことを自覚する機会となっている。今後は、私から次世代の研究者にエールを届けられるように、研究活動に邁進し続ける所存である。

この度は、大変貴重な機会を頂戴しました。感謝申し上げます。

収集した資料の一部